# 14［随筆］　『と裏切りの宝石』

　駅のホームで、に座って新聞を広げている女のひとをみた。年齢は六十代くらいだろうか。銀髪の外国人女性である。ａセスジを伸ばした姿をかっこいいなと思う。そのひとの周囲には、彼女ひとりだけの時間が流れているようだった。

　だが、考えてみるとこれはおかしな話で、本来はだってその人ひとりの時間を生きているなのだ。誰もが自分ひとりの死を死ぬ運命である以上、そうでしか有り得ない。にもわらず、我々の多くは①その事実からｂ曖昧に目をらして生きている。

　そのために、なんというか、②ひとりのオーラが身に宿らない。実際にひとりで行動していても、③雰囲気はお昼休みの仲良しＯＬのようになってしまう。④身の□□□のひとつひとつがひとりの宿命を感じさせるひとはｃ稀だ。

　数年前にる女性と仲良くなって、何度かメールをやりとりしていた。私は彼女に好意をもっていて、相手もそんなｄインショウだった。このままいくとつき合えそうだと思っていた或る日、彼女から一通のメールがきた。そこにはこう書かれていた。

　　追伸

　　恋人ができちゃった。

　　裏切ってごめんね。

　ショックだったが、腹は立たなかった。⑤それどころか、彼女のことがますます好きになってしまった。「裏切ってごめんね」の文字を何度もみて、うっとりする。私はおかしいのだろうか。

　彼女は私に嘘をついたことになる。少なくとも彼女自身はそう思っていた。「裏切って」という書き方でそれがわかる。そんな風にわずに、それまでの私との雰囲気をなかったもののようにして、恋人ができたことを伝えることも可能だったろう。そちらの方がむしろ普通だと思う。だからこそ、この「裏切って」が輝いてみえる。

　えてそう書くことで、彼女は自分の「嘘」と「裏切り」を自ら確定してしまった。そこが美しい。その行為の背後にあるのは、ひとりの時間の濃さだと思う。

　私はひとりの死を死ぬしかない自分の運命が怖いのだ。いつか必ずたったひとりの死は来るのに、それをまつだけの日常のなかで、小さなことにびくびくしながら、ひとりの時間を薄めて生きている自分が情けない。

　だから、ひとりで駅の椅子に座って新聞が読めて、嘘がつけて、裏切れて、法律をも破れる女性にｅ憧れるのだと思う。その笑顔をみたら、逃れられない運命の恐怖が消えて、⑥同じ定めのなかに未知の輝きが生まれるような気がする。

●語注

銀髪の＝白髪頭の。

オーラ＝人や物が発する、視覚ではとらえられない一種の雰囲気。

◆漢字　本文中の二重傍線部ａ〜ｅのカタカナは漢字に直し、漢字は読みをひらがなで記せ。ａ〔　　　　　〕　ｂ〔　　　　　〕　ｃ〔　　　　　〕　ｄ〔　　　　　〕　ｅ〔　　　　　〕

問１　傍線部①の指す内容を、「こと」に続くように本文中から二〇字以内で抜き出せ。8点

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

こと

問２　傍線部②と同様の状態を示す表現を本文中から一五字以内で抜き出せ。9点

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問３　傍線部③はどういうことのなのか。最も適当なものを次から選べ。8点

ア　小さなことにもびくびくと、他人の目ばかりを気にして行動すること。

イ　目の前の関心事にとらわれて、本来の自分をおろそかにすること。

ウ　自分に根拠のない自信を持って、今だけを楽しもうとすること。

エ　ひとりで行動していても、友達と過ごしているように満ち足りていること。

オ　ランチタイムに出かけるＯＬのように、毎日同じ行動を繰り返すこと。

〔　　　〕

問４　傍線部④が「身体の動かし方」という意味の語句になるように、□に適当なひらがな三字を入れよ。6点

〔　　　　　　　〕

問５　傍線部⑤の理由として最も適当なものを次から選べ。9点

ア　逃れられない運命を、弱気な私にさとす強さと美しさに憧れを感じたから。

イ　ひとりの宿命から目を逸らさない彼女の生き方に感じていた魅力を、再確認したから。

ウ　私を裏切っていたと嘘をついて、ひとりで責任をとろうとする姿が美しかったから。

エ　普通は「嘘」や「裏切り」とまでは言えないことを、そう言い切る姿が美しかったから。

オ　彼女のひとりの時間の濃さが、単なる「嘘」を美しい「裏切り」に高めたから。

〔　　　〕

問６　傍線部⑥について、次の文末表現に合うように説明せよ。ただし、「同じ定め」とはどういうことを言っているのか本文中の表現を用いて明らかにすること。10点

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕が生まれる気がする。

【解答】

漢字　ａ背筋　ｂあいまい　ｃまれ　ｄ印象　ｅあこが（れる）

問１　誰だってその人ひとりの時間を生きている（19字）

問２　ひとりの時間を薄めて生きている（15字）

問３　ア

問４　こなし

問５　エ

問６　Ａ自分ひとりの死を死ぬ運命からＢ目を逸らさないで生きる勇気

　　　（または）Ａ自分ひとりの死を死ぬ運命をＢ潔く受け入れる覚悟

　　　（Ａの内容がなければ×、Ｂの内容がなければ5点減点）

■覚えておきたい語句

□6　目を逸らす……………見ないようにする。視線をはずす。

□22　敢えて…………………やりにくいことを無理にするさま。

〔要　約〕

　体験の部分を除いて、

筆者の問題意識〔［2］・［3］段落〕と

伝えたい気持ち〔［8］・［9］段落〕を中心にまとめる。

　　　　　↓

自分ひとりの死を死ぬ運命から目を逸らして我々は生きている。ひとりの宿命を感じさせるひとは稀だ。ひとりの死を死ぬ運命を恐れる自分が情けない。だから私は、ひとりの宿命を感じさせる女性に憧れるのだと思う。（99字）

〈筆者＆出典〉穂村　弘（ほむら・ひろし）一九六二年（昭和37）北海道生まれ。歌人、エッセイスト。絵本の翻訳家としても活動。「かばん」所属。第一歌集『シンジケート』でデビュー。歌論『短歌の友人』で第19回伊藤整文学賞評論部門受賞。エッセイに『世界音痴』『現代入門』など。本文は、『本当はちがうんだ日記』（集英社、二〇〇五年）所収「噓と裏切りの宝石」より。

【読みのセオリー】

★文学的な表現は説明部分から考える

　随筆は、評論のように、読者に理詰めで迫るのではなく、文学的（共感的）に理解してもらうような書き方をする。随筆の読みの眼目は、文学的に表現された筆者の思いを、評論のように説明的に言い換えた部分から理解するところにある。

■読みのセオリー［実践］文学的な表現は説明部分から考える

問５　文学的に表現された筆者の思いを、説明している段落を探そう。

自分を振った「彼女のことがますます好きになってしま」う。

　　　＝

［１　　　　　　　］的な心理を説明している段落は、

［２　　］・［３　　］段落。

その段落の内容と選択肢を照らし合わせてみよう。

〔解答〕　１逆接　２［6］　３［7］

☆「セオラム補充問題」　問題は、次の３種類があります。

　　＊差し替え　　　……該当の問と差し替えるもの

　　＊追加　　　　　……同じ問で、追加された問題

　　＊新問　　　　　……追加可能な新たな問題

＊差し替え

問２・問３　25行目「ひとりの時間を薄めて生きている」の例として、比喩的に表現されているところを一五字以内で抜き出せ。

　［答］　お昼休みの仲良しＯＬのように（14字）

＊新問

問７　４行目「考えてみるとこれはおかしな話」とあるが、「これ」の指示内容を五○字以内で答えよ。

　［答］　Ａ周囲にひとりだけの時間が流れているような外国人女性を見て、Ｂ筆者がかっこいいなと思ったこと。（45字）（ＡとＢ二つの要素が書かれていなければ×）